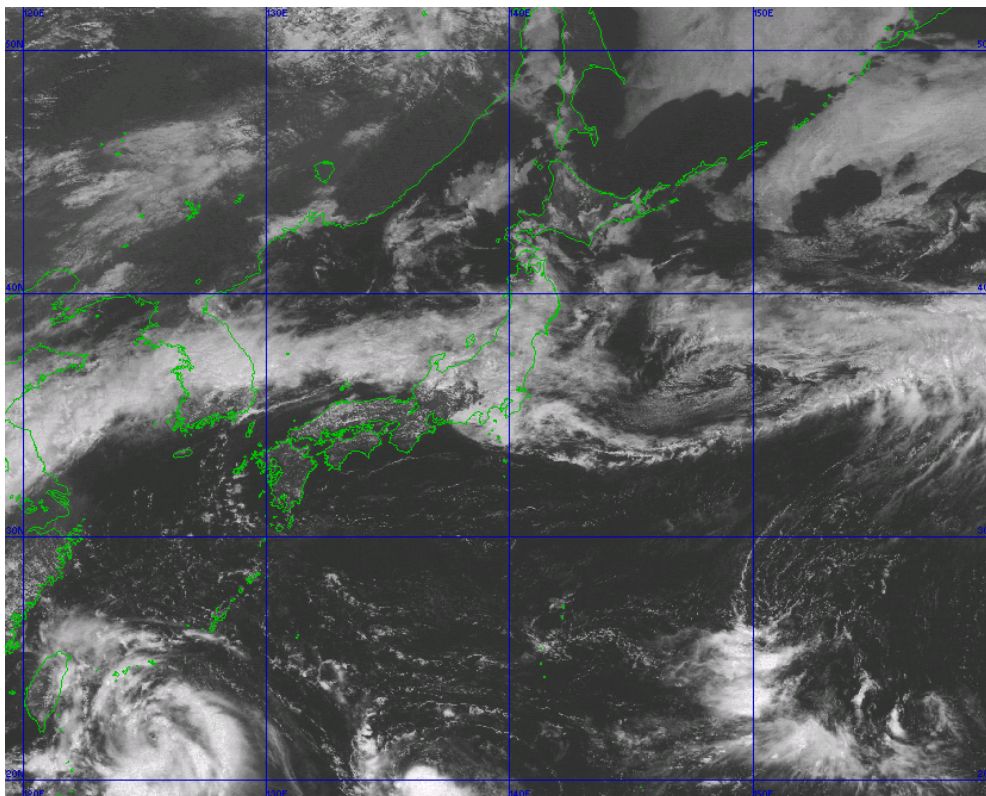


気象衛星画像

－今月のトピックス－



2003年8月19日12時の可視画像

冷夏を象徴する停滞前線

台風第10号が日本を縦断した後、太平洋高気圧が後退してオホーツク海高気圧が再び勢力を盛り返し、日本付近は前線が停滞するようになった。このため、北日本を中心に低温や日照不足が続き10年ぶりの冷夏となった。

写真は、8月19日12時の可視画像である。オホーツク海高気圧と太平洋高気圧にはさまれて、日本を横断するように前線に対応する雲域が東西に伸びている。前線の北側の関東地方や東北地方では、オホーツク海高気圧による北からの冷たく湿った気流によってもたらされた霧や層雲系の雲が広がっている。一方、前線の南側の東海地方や西日本は、ほぼ晴天となっている。

この日、前線の北側に位置する東京の最高気温は、24.6℃、前線の南側に位置する名古屋の最高気温は34.1℃と、前線を境にして10℃近い気温差となった。

(気象衛星センター)